



令和6年3月1日

令和5年度 彦根藩資料調査研究会公開シンポジウム 殿様と家臣たちの日常

— 「側役日記」^{そばやくにつき} から見る井伊家^{なほひで} 10代直幸の政務 —

を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの公開シンポジウムを開催しますのでお知らせします。つきましては、広報についてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 趣旨

彦根城博物館では、令和3年度から5か年計画で、「殿様の日常生活」の解明を研究テーマとする彦根藩資料調査研究会を組織しました。本研究会は、国から文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）を受けて、外部の日本史研究者と共同で、井伊家当主（殿様）の生活実態の全体像の解明に取り組んでいます。

本研究会が主な分析対象としている史料が「側役日記」^{そばやくにつき}（彦根藩井伊家文書）^{ひこねはんいけもんじょ}と呼ばれる、殿様の側近くでその政務活動を補佐した側役^{そばやく}（彦根藩士）が記した業務日誌です。この日誌は、御殿^{ごてん}の政務空間における殿様の行動を具体的に伝える重要な史料です。当館に約70冊が伝来し、このうち半数以上が井伊家10代当主直幸^{なほひで}の時代に連続して作成されていることから、本研究会ではまず井伊直幸に焦点を当てて分析を進めてきました。

計画の3年目となる令和5年度はこれまでの成果を広く公開する研究会を開催します。研究会は、広く市民等も参加可能な場とするため、公開シンポジウムの形式をとります。テーマは「殿様と家臣たちの日常」です。政務をはじめとする殿様の行動は多くの家臣により支えられましたが、中でも家老^{かろう}や用人^{ようじん}、側役^{そばやく}や近習^{きんじゅう}といった家臣が中核的な役割を担いました。本シンポジウムでは、彼らがどのように殿様を支えていたのかを「側役日記」から具体的に明らかにすることにより、御殿における「殿様の日常」に迫ります。



2 日時

令和6年(2024年)3月24日(日) 午後1時～午後4時30分

3 発表タイトル・発表者

「殿様と近習—そのはたらきを考える—」

発表者：^{ありさかみちこ}有坂道子氏（京都橘大学文学部教授）

「殿様と家老」

発表者：^{みやけまさひろ}三宅正浩氏（京都大学大学院文学研究科准教授）

「殿様と用人」

発表者：^{わたなべこういち}渡辺恒一（当館学芸員）

4 会場・費用など

会場：彦根城博物館 能舞台正面見所（彦根市金亀町1番1号）

定員：100名（当日受付・先着順、受付は午後0時30分～）

資料代：500円

※展示室の入室には別途観覧料が必要

一般500円 [450円]、小・中学生250円 [170円]

（ [] 内は30名以上の団体割引料金）

5 関連企画

シンポジウムの開催に合わせ、「殿様と家臣たちの日常—家老・用人・側役—」と題して、シンポジウムで取り上げる古文書を当館展示室6にて展示しています。

（展示期間：令和6年2月17日(土)～4月21日(日)、3月18日(月)・19日(火)を除く）

問い合わせ先

彦根城博物館 学芸史料課

「彦根藩資料調査研究会」係

担当：北野 智也

電話：0749-22-6100

FAX：0749-22-6520